

ユニリタマガジン

UNIRITA Magazine

vol.
74

特集

2024年に
企業に取り組むべき
4つのITトレンド

最新IT活用事例のご紹介

開催直前! 第40回 UNIRITA
ユーザシンポジウムの
見どころを紹介

システム管理者の会の挑戦!
2024年度の活動計画

2024年に企業が取り組むべき4つのITトレンド

昨年10月に発行した、ユニリタマガジン vol.71 では、「お客様へのヒアリングから見える ITトレンドの未来」をテーマに据え、お客様へのヒアリングから得た情報をテキストマイニングし、現在の課題や投資動向などを分析した結果として、「データ活用」「データ活用」、「カスタマーサクセス」、「クラウド活用」、「帳票」という4つのITトレンドを紹介しました。

今号では、「2024年に企業が取り組むべき4つのITトレンド」をテーマに、vol.71で紹介した結果と、毎年この時期に大手IT調査会社が発表する注目のITのキーワードやトレンドを組み合わせ、新たに4つのITトレンドを加え、それぞれのトレンドがビジネスにどのような影響をもたらすか、またどのように取り組むべきかを詳しく紹介します。

データドリブン経営を実現する基盤の構築

01

現在のビジネス環境において、迅速かつ正確な意思決定は事業成長のカギを握っています。このためには、整理されたデータを基盤とするデータドリブン経営の構築が不可欠です。データの整理と分析を通じて、企業は市場の変化に素早く対応し、より確かな意思決定を行うことが可能になります。整然としたデータ管理は、競争優位を確立し、企業が直面する課題への対応力を高めるための基礎となります。

エンタープライズサービスマネジメントの確立

02

DXを事業部門が推進するにつれ、新しい顧客向けサービスの立ち上げが加速しています。この急速な変化の中で、IT部門にはビジネスへの貢献とITガバナンスを両立させるという新たな役割が求められています。ここで重要な戦略として位置づけられるのが、エンタープライズサービスマネジメントです。エンタープライズサービスマネジメントは、新しく立ち上げられる各サービスに対してサービスカタログを作成し、共通のIT基盤や支援メニューを提供することで、サービスの可視化と標準化を実現します。

ハイブリッドワーク時代のセキュリティ対策

03

オフィスワークとリモートワークなど、複数の方法を組み合わせたハイブリッドなワークスタイルが普及する中、企業は多種多様なツールやサービスを導入しています。これに伴い、セキュリティのリスクも増大しており、企業はこれまで以上に警戒が必要となっています。重要なのは、現状に即したセキュリティ対策の実施です。次々と出てくるセキュリティリスクに対応するためには、常に最新の情報を取り入れ、対策を更新し続けることが不可欠です。また、従業員へのセキュリティ教育の強化や、適切なアクセス管理の実施も重要です。ハイブリッドワークを安全に運営するためには、セキュリティ対策を常に最前線で更新し続けることが求められます。

AI技術の活用

04

AI技術の進化は、企業にとって今後の事業展開を考えるうえで回避不可能、かつ重要なトレンドとなっています。特にChatGPTに代表される生成AIなどの先進的なAI技術は、生産性の向上に大きく貢献し、多くの業務プロセスを変革しています。データ分析や意思決定の分野では、AI技術の活用がますます重要になっており、これを取り入れることで、企業はより迅速かつ効率的な業務運営が可能になります。AI技術を適切に活用することで、企業は競争優位性を確立し、新しい価値を創出することができます。今後もAI技術の進化は続き、その活用範囲はさらに広がることが予想されます。

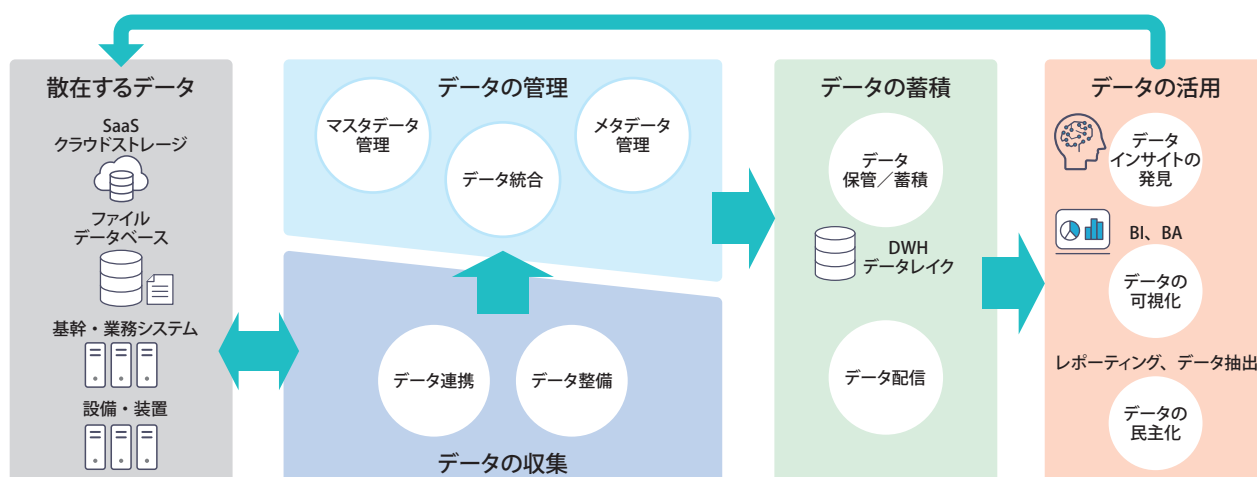
4つの
ITトレンド

01 データドリブン経営を実現する基盤の構築

現在のビジネス環境では、迅速かつ公正な意思決定が事業成長のカギを握っています。企業内に複数ある事業に対し、限りの経営資源をどのようなポートフォリオで投入すべきか、その意思決定のために、経営は各事業の運営から生み出されるデータを必要としています。各事業のセールスパイプライン、サービスの利用状況、契約社数、解約率、売り上げ、コスト、活動時間などのKGI/KPIを、事業を横串かつ定量的に比較評価できることが求められます。データドリブン経営とは、事業運営から得られたデータを活用し、データに基づいて戦略のPDCAサイクルを回し、持続的に事業を成長させる経営アプローチです。このアプローチでは、意思決定者が感覚や経験に頼るのではなく、客観的な事実に基づいた仮説設定や評価を行うことで、よりスピーディーで合理的な合意形成を促します。

データドリブン経営基盤とは、このようなアプローチを効率的に行うためのIT基盤です。その構成要素としては、基幹システム、顧客向けITサービス、社内プロセスで利用する各種ツールなどからデータを収集するための連携・変換・加工機能、収集したデータを保管・蓄積・保全する機能、利活用時におけるデータの検索・可視化・配信機能などが必要となり、昨今ではデータのパターン認識や、異常値・類似性の検知など、人の代わりに気づきを提言するAIの適用も欠かせません。また、データ品質を担保するためには、マスターデータ管理、メタデータ管理(データ定義の共有化)、データ統合など、データマネジメントの機能も不可欠です。これらの機能を企業内に統合的に提供するデータドリブン経営基盤の構築は、数あるDX施策の中でも事業成長に直結した優先度の高いテーマと言えます。

データに基づいた意思決定や仮説検証に基づいたアクション



ユニタグループが提供する関連サービス

データマネジメントソリューション

「データマネジメントソリューション」はユニタグループのデータ総研が提供するサービスです。データに関するノウハウを結集し、お客様のDX推進を「データマネジメント」の側面からサポートするソリューションです。データガバナンス・ガイドラインの策定支援や、データ戦略のためのブループリント（青写真）の策定支援、MDMやデータ連携基盤の策定支援など、お客様のデータマネジメントの実現をサポートするサービスを、データマネジメント・アセスメント結果をもとにプログラム化して提供します。

Waha! Transformer

必要なデータを抽出、異なる形式のデータを変換・加工して整え、データベースやBI、DWHなどにスムーズに連携・統合するツールです。

Waha!
Transformer

データ分析サービス

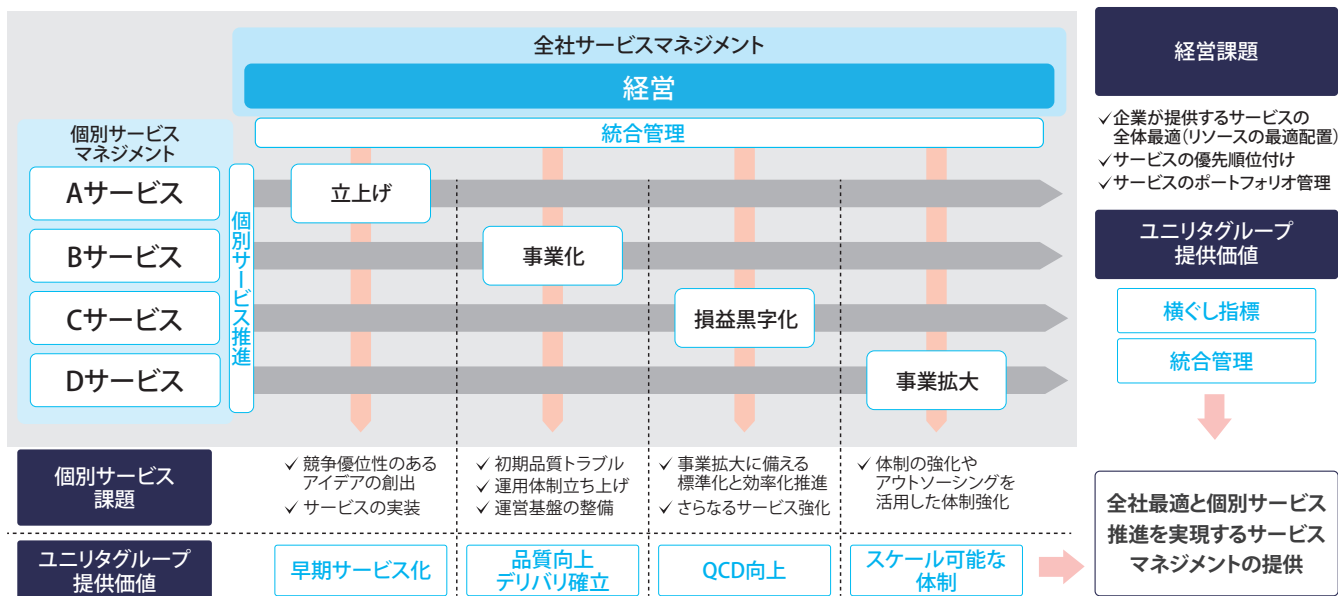
ユニタの豊富な経験と実績を持つ専門家がデータ分析を行い、目的（ゴール）にあわせたデータの可視化やデータ間の傾向・相関を導出します。これによりデータの価値を引き出し、精度の高い意思決定といったデータ活用を推進することで、お客様のビジネスの成功を支援します。

02 エンタープライズサービスマネジメントの確立

事業部門によるDXが進展していくと、各事業から新たな顧客向けサービスが次々に立ち上がります。将来のある局面では、立ち上げ、事業化、損益黒字化、さらなる拡大期といったさまざまなステージにあるサービスが混在した状況になります。各サービスはスピード感や柔軟性を重視するあまり、IaaSなどのインフラ、認証基盤、セキュリティツール、CRM、販売管理、データレイク、BIツール、コミュニケーションツールなどを個別に選定して利用することが常態化しており、各サービスを横ぐしで見た各種IT基盤の標準化やサービス品質の底上げなどのガバナンス強化策が後回しとなっています。このような状況では、IT基盤統合による利用料のディスカウント機会などのコストメリットを失うだけでなく、サービス間の相互連携や、社員の再配置、アウトソーシングなどが困難となり、事業拡大がどこかの段階で限界に達してしまいます。

エンタープライズサービスマネジメントとは、ITサービスマネジメント(ITSM)の考え方を顧客向けITサービスにも拡張して適用し、各サービスが利用するIT基盤や運用プロセスの可視化と標準化を推進し、その効率的な立ち上げ・成長を支えるとともに、共通のルールや評価指標を設定して各サービスのポートフォリオ管理を行い、投入資源の全体最適化を目指す管理手法です。サービスを立ち上げ、事業化し、成長させてゆく過程では、ITインフラを始めとして、どんなサービスでも共通で必要とされる機能があります。IT部門が主体となり、これらに企業標準を定めてサービスカタログ化し、事業部門に提供することで、IT部門はビジネスへの貢献度を高めることができると同時に、DXの波で手放しかけた全社的なITガバナンスの手綱を取り戻すことにも繋がります。アフター DXにおけるIT部門の新たな付加価値として、エンタープライズサービスマネジメントの確立は重要な戦略の1つと言えます。

事業推進サービスマネジメント



ユニタグループが提供する関連サービス

デジタルサービスマネジメントシステム

「デジタルサービスマネジメントシステム」はユニタグループのピーエスピーソリューションズが提供するサービスです。デジタルサービスカンパニーへと変革するために必要な「エンドツーエンドでの顧客体験管理」「競争力を支えるサービスマネジメントの運営」「データに基づくカスタマーサクセス」をすべて実現できるプラクティスです。



Ranabase

業務改善コンサルティングのノウハウから生まれた、業務プロセスの可視化から改善、システム設計/開発まで一連の改善サイクルを提供するフローチャートツールです。



LMIS

ヘルプデスク機能を中心としたサービスマネジメントプラットフォームです。サービスマネジメントによる可視化、自動化、標準化を実現します。ITIL準拠のテンプレートと、柔軟性と拡張性に優れたプラットフォームにより、最適なサービスマネジメントを提供します。



03 ハイブリッドワーク時代のセキュリティ対策

ユニリタマガジン vol.68で紹介した2023年のITトレンドに「ハイブリッドワークの拡大」というキーワードをお伝えしました。新型コロナウイルスの5類への移行などもあり、外出への規制が解け就労形態はさらに多様化しています。このような新たな就労形態の多様化に伴い、ハイブリッドワーク時代のセキュリティ対策はますます重要になっています。オフィスワークとリモートワークを柔軟に組み合わせるハイブリッドワークの普及により、企業は従業員がどこからでも安全に業務できる環境を提供する必要があります。

さらに、DX推進や業務のデジタル化に対応するためにクラウドサービスの利用が増加する中、これらのサービスを安全に利用するための対策も不可欠です。このためには、高度なセキュリティ対策が必要となります。

セキュリティ対策として特に有効なのは、「シングルサインオン(SSO)」「ID管理」などの機能の利用です。SSOは複数のアプリケーションへのアクセスを1つの認証で管理することで、セキュリティ強化と利便性の向上を両立させます。ID管理を通じて、適切なユーザーが適切なリソースにアクセスできるように制御し、不正アクセスのリスクを低減します。

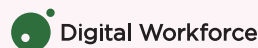
また、新しい技術や知識の習得には工数がかかり、IT部門の負担となることから、アウトソーシングやプロフェッショナルサービスの利用も効果的です。これにより、最新のセキュリティ対策を専門家に委ねることができ、IT部門のリソースを他の重要な業務に集中させることが可能になります。

今後はAI技術や機械学習を活用したセキュリティ対策も発展し、人的リソースに負担をかけず迅速な対応が可能となっていくでしょう。

ユニリタグループが提供する関連サービス

Digital Workforce

働き方改革のプラットフォームとして従業員やIT部門の方々の生産性・セキュリティを向上させる機能を取りそろえたDaaSです。「ポータル」「シングルサインオン(SSO)」「ID管理」「API管理」「セキュアブラウザ」の5つの機能を組み合わせ、安全で快適なリモートワーク体制を提供します。



各種プロフェッショナルサービス

ユニリタグループでは、システム運用やセキュリティ監視に対するさまざまな支援サービスを用意しています。なにかお困りなことがありましたらお気軽にご相談ください。

04 AI技術の活用

2023年はChatGPTが大きな話題を呼び、AI技術、特に生成AIの分野が著しく進化しました。この技術革新は、企業が業務プロセスを効率化し、新たなサービスやソリューションを提供する上で大きな役割を果たしています。データ分析、顧客サービス、マーケティング、製品開発などの領域において、AIの活用は企業にとって避けられないトレンドとなっています。

例えば、ChatGPTのような生成AIは、顧客サポートの自動化、個別に最適化されたマーケティングコンテンツの作成、複雑なデータセットからの分析などに利用されています。

また、AI技術は意思決定プロセスをサポートし、ビジネス戦略の策定においても重要な役割を担っています。AIにより市場動向を分析し、将来のビジネス機会を予測することが可能になっています。このような分析は、従来の方法よりも高速かつ精度が高いため、企業はより迅速に市場の変化に対応する

ことができます。さらに、AI技術は製品開発のスピードアップにも寄与しています。新製品のデザイン、テスト、改良プロセスがAIによって強化され、市場への導入時間が短縮されています。ITの分野に目を向けるとコーディングの自動生成など、大幅な業務効率の向上が期待できます。

AI技術の活用は、今後ますますビジネス界において中心的な役割を果たしていくことでしょう。企業はこれらの進化するツールを活用し、競争力を高め、イノベーションを推進していく必要があります。

ユニリタでは、製品とAIサービスを連携させることで、業務の精度や効率化を実現した事例も生まれています。また、常にAI技術の動向をチェックし、AI技術の活用法や製品への反映を模索しています。ご期待ください。

ITフォーラム 開催

「2025年の崖」、その先に ～ビジネスとITの橋渡しとなり、頼られるIT部門へ～

個別最適で進められたIT導入・運用を統制するサービスマネジメントアプローチと、デジタル化を推進して得られた宝の山ともいえる「データ」を活用する方法(データドリブンアプローチ)をご紹介します。IT部門がこれらをいかに推進し、ビジネスにどのように貢献できるかを考える機会としていただければと思います。

開 催 概 要

開催日 2024年 3月21日(木)
14:00～17:30

会 場 オンライン配信

詳細はこちらをご覧ください
<https://www.unirita.co.jp/seminar/csit-2024.html>

最新IT活用事例のご紹介

ユニリタでは、お客様が当社の製品やサービスを利用することで解決できたさまざまな課題や施策への適用、導入後の成果を、Webサイトで紹介しています。今回は、先の特集「2024年に企業が取り組むべき4つのITトレンド」で紹介したキーワード「データドリブン経営を実現する基盤の構築」、「エンタープライズサービスマネジメントの確立」、「ハイブリッド

01 データドリブン経営を実現する基盤の構築

事例 1 Salesforceと基幹システムの連携など、柔軟なデータ連携の基盤づくりを実現

Waha! Transformer®

WILL GROUP

株式会社ウィルグループ 様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/willgroup>

課題

- ・現場からの要望に対してプログラムを自作して対応、結果、データ連携の属人化が進む
- ・システム改修の際にメンテナンスに手間がかかる
- ・BIツール付属のETLでは制約が多く、使い勝手の面で負担軽減につながらない

解決策

- ・シンプルなデータ連携やデータ移行のためのツールとして重宝
- ・数時間かかっていたデータ出力をわずか数分に短縮、開発効率の大幅な向上を実現
- ・アジャイル的なアプローチで試行錯誤しやすい環境を整備

導入効果

社内におけるデータ連携基盤として「Waha! Transformer」を採用したことで、情報へのアクセスの迅速化や開発効率の大幅な向上を実現。さらには、データ連携の設定が可視化され新メンバーへの引継ぎも容易に。

事例 2 ETLとBPMで部分最適化された仕組みと統合利用できる環境を整備

Waha! Transformer®

KDDI

KDDI株式会社 様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/kddi>

課題

- ・通信ネットワークの運用保守において自動化や省力化に向けた業務改革の必要性
- ・複雑な業務手順による障害復旧プロセスを改善するための仕組みづくりが急務に
- ・BPMIによる業務改善を進める過程で、データ活用できる情報を集める手法を検討

解決策

- ・「Waha! Transformer」を活用し、現場の情報を円滑に収集・変換、「活用DB」の生成を実現
- ・ETLとBPMIにより、社内になかったデータモデルやビューを生み出すことに成功
- ・監視やオペレーションなど各種業務に関わるメンバーの総稼働時間削減に大きく貢献

導入効果

現場に点在する部分最適化された仕組みを活用して運用保守業務を行うなか、現場からデータを取得して変換、活用できるDBを生成する仕組みとして「Waha! Transformer」を採用。BPMでの業務プロセスのモデル化による業務効率化のための環境づくりに貢献。

事例 3 ユーザーファーストを前提としたビジネスモデル変革を成し遂げる

Waha! Transformer®

CASIO カシオ計算機株式会社 様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/casiocomputer>

課題

- ・プロダクトファーストからユーザーファーストの事業戦略に向けた環境整備を目指す
- ・従来型の見込生産方式から、受注生産方式を可能にする新たなバリューチェーンを模索
- ・わずか半年でECサイトと基幹システムを含めた周辺システムとの連携を行う基盤整備が必要に

解決策

- ・GUIで自由に開発でき、仕様変更にも柔軟に対応できる「Waha! Transformer」を選択
- ・新たなバリューチェーンの基盤整備を半年で実現、DX戦略を強力にバックアップ
- ・ユーザーとのタッチポイントを増やし、データ活用に向けた環境づくりに貢献

導入効果

API-HUBとして「Waha! Transformer」をデータ連携の中心に据え、新たなバリューチェーンを短期間のうちに構築することに成功。一人ひとりのユーザーに向き合う事業変革を実現するためのDX戦略構築に向けた重要な基盤のひとつに。

事例 4 最大93%の工数削減を実現!BPRとデータ活用の切り札として「Waha! Transformer」が活躍

Waha! Transformer®

CTC

CTCシステムマネジメント株式会社 様



詳しくはこちら

<https://waha-transformer.com/case/ctcs-2>

課題

- ・部門ごとに異なる運用業務の属人化
- ・短期間、且つ人手による業務の高負荷
- ・手作業によるメール送付漏れや作業ミス

解決策

- ・(属人化) 部門ごとの運用業務を標準化
- ・(高負荷) 個々の作業を繋げ、一連の作業として自動化
- ・(作業ミス) 自動化処理に条件分岐とメールテンプレートを活用

導入効果

組織改編によってBPRを推進しながら業務の標準化を進めるなかで、自動化の適用部分に「Waha! Transformer」を選択。転記ミスを撲滅し、最大で93%の作業時間短縮に貢献。さまざまな業務改善に効果を発揮しています。また、既存業務の改善にとどまらず、データ活用場面でも「Waha! Transformer」が役に立っています。

ワーク時代のセキュリティ対策」に関する課題へ対応した最新事例を中心に、それぞれの概要をお伝えします。詳しい情報はWebサイトに掲載されていますので、各リンクからご覧ください。

02 エンタープライズサービスマネジメントの確立

事例5 自動化と「LMIS」によるサービスマネジメントで組織を活性化!

LMIS



興安計装株式会社 様



詳しくはこちら

<https://www.lmis.jp/casestudy/itil/koan>

導入の メリット

ITIL準拠のサービスマネジメント基盤を導入し、管理の全体最適化を実現。また、運用自動化基盤の導入・連携により、アラート発生からチケット発行までの業務の自動化を実現。この取り組みにより、人員削減や監査工数の削減、目標達成率の大幅改善を実現。

- ・ 輪番体制(4チーム、2交代制)から1輪番分(4名)を削減(25%削減)
- ・ ISO(品質、環境、情報セキュリティ)の監査項目管理で活用
- ・ 各品質目標の達成率を25%向上

事例6 十万社を超える顧客のサービスマネジメント基盤として活用

LMIS

RICOH リコージャパン株式会社 様



詳しくはこちら

<https://www.lmis.jp/casestudy/itil/ricoh>

課題

- ・ 属人化した管理によって担当者以外にメンテナンスできない
- ・ ITサービス管理ツールを提供する支援ベンダーのサポート品質が低下
- ・ ITサービス管理ツールの維持コストが毎年増加

解決策

- ・ ITIL準拠の標準的な仕組みとして「LMIS」を採用
- ・ 従来の環境に比べて3割ほどのコスト削減を実現
- ・ 構成情報の整備を実現、問い合わせ対応も迅速化

導入 効果

- ・ 毎年維持コストが上がっていたITサービス管理ツールから、ITIL準拠のサービスマネジメント基盤として「LMIS」を採用。従来の管理ツールに比べて約3割のコスト削減を実現。また、標準化によるサービス品質向上と、構成情報の整備により問い合わせ対応を効率化させることに成功。
- ・ 長年の運用で属人化した体制と、契約ベンダーのサポート品質が低下していた状態から脱却。ユニリタおよび導入支援を担うNSW社の手厚いサポートを受けることで遅延なく環境移行が実施でき、プロジェクトを完遂。

03 ハイブリッドワーク時代のセキュリティ対策

事例7 2万人を超えるグループ全体の情報基盤として活用する「Digital Workforce」

Digital Workforce



大成建設株式会社 様



詳しくはこちら

<https://dwf.jp/case/taisei.html>

課題

- ・ グループで横断的に活用できるポータルサイトの刷新
- ・ 働き方改革を推進すべく、オンプレミス環境からの脱却
- ・ 従業員のエンゲージメント強化につながる情報の提供

解決策

- ・ 全社的なDX推進を支えるグループ情報基盤を整備
- ・ Azure ADとの連携で認証プロセスをシンプルに、セキュアかつ利便性の高い環境を整備
- ・ 個人が自由にガジェットを配置できるエリアを設定するなど使い勝手のいい柔軟なポータルを提供

導入 効果

2万人を超えるグループ会社のメンバーが利用するポータルサイト「TAISEI PowerSite」の基盤として「Digital Workforce」を活用し、DX推進を支え、生産性向上に資する環境整備に貢献。

今回紹介した事例の他にも、ユニリタのWebサイトでは、さまざまな課題を解決する事例が紹介されています。ぜひ、こちらをご覧ください。

ユニリタWebサイトの事例ページはこちら

<https://www.unirita.co.jp/caselist.html>

また、ユニリタWebサイトにも掲載されていない最新事例を、3月に開催されるイベント「UNIRITAユーザシンポジウム」にて、事例企業様からご発表いただきます。その中には今回ご紹介できなかったAI技術を活用した事例も発表する予定です。

「UNIRITAユーザシンポジウム」の開催概要とプログラム、お申し込み方法などを今号の8ページに紹介しています。

ぜひ、ご覧ください。

今回は第40回の節目となるUNIRITAユーザシンポジウム。ご参加いただいた方々に何か持って帰っていただけるものを、ということで「学び」をテーマとした、講演会やここでしか聞けないセッションをプログラムに取り入れています。1年の研究活動の成果を発表する場となる「研究発表」では、発表練習会の段階から活気に満ちていて、例年以上に熱気にあふれています。また、40回記念および「学び」の一環として、例年とは趣向を変え1日目にも記念講演を開催します! 2日目の講演会、マネジメントセッションとあわせてご期待ください。パートナー出展ブースも復活させ、活気あるシンポジウムとなるよう準備しています。皆様のご参加をお待ちしています。 ※ 記載の内容は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

主な内容

1日目

- 《記念講演》 日本未来図2030 〜バックカastingで考える〜
藻谷浩介氏 (株)日本総合研究所 主席研究員、(株)日本政策投資銀行 地域調査部特任顧問(非常勤)、特定非営利活動法人ComPus地域経営支援 ネットワーク理事長
- 《事例発表》
- ・東京海上ディーアル株式会社 様
 - ・地方独立行政法人 長野市民病院 様
 - ・日本機械工業株式会社 様
 - ・リコージャパン株式会社 様
- 《「学び」セッション》
- ・株式会社匠BusinessPlace 様 (要件定義) ※() 内は講演テーマです
 - ・株式会社農情人 様 (NFT入門)
 - ・(株)ビーエスピーソリューションズ (サービスマネジメント)
 - ・株式会社データ総研 (データマネジメント)
 - ・システム管理者の会 (システム運用)

- 《パートナー出展》 16社(ユニリタ含む)
- JFEシステムズ株式会社(セッションあり)/ 株式会社日立ソリューションズ(セッションあり)/ アライズイノベーション株式会社(セッションあり)/ DSU(株式会社デジタルインフォメーションテクノロジー、株式会社システムインテグレータ、株式会社ユニリタ)/ 株式会社匠BusinessPlace/ 株式会社山櫻/ NSW株式会社/ 株式会社ソフトブレックス/ リコージャパン株式会社/ 東京システムハウス株式会社/ 株式会社アイネット/ 株式会社DXコンサルティング/ 株式会社ヒューアップテクノロジー/ CTCシステムマネジメント株式会社(ミール)/ 株式会社ユニリタ

2日目

- 《研究発表》 25グループが発表します!
今年度のマネジメント層の研究グループのパネルセッションは「東日本システム運用研究部会(OE01グループ)」です。ご期待ください。
- 《マネジメントセッション》 メタバース、Web3の未来
〜IT業界における近代の流れから、どのような未来に繋がる可能性があるのか〜
山崎浩一氏 Axross Holdings | Vma plus 株式会社
執行役員CSO、情報経営イノベーション専門職大学 客員教授
- 《講演会》 相手の思いを引き出し言葉にする
コミュニケーション力を育て地域を元気に!!
山本哲也氏 フリーアナウンサー

開催概要

開催期間:
2024年3月7日(木) ~ 3月9日(土)
会場: ヒルトン福岡シーホーク

詳細はこちらをご覧ください
<https://symposium.uniritauser.jp/>

システム
管理者の会

システム管理者の会の挑戦! 2024年度の活動計画

システム管理者の会は、個人会員19,000名、賛同企業350社の、日本最大規模のシステム管理者のネットワークです。システム管理に携わる方々を対象に、生き生きと働ける環境づくりと、幅広い知識や技術力の習得を支援しています。主な活動は、システム管理者の方々のスキルアップや知識習得をサポートするシステム管理者認定講座や、情報交換や交流の機会を提供するシステム管理者感謝の日イベントや各種セミナー、システム管理者の方々に感謝の気持ちを伝える活動を表彰するシステム管理者アワードなどを実施しています。



【システム管理者認定講座】

大好評!「システム管理者認定講座」の2024年度スケジュール公開!!

「システム管理者認定講座」は、受講者のスキルに合わせて、システム管理の業務に必要なスキルや知識を身につけることができるため、ITキャリアアップを目指す方には必見です。開催日程を公開しましたので、下記のWebページURLをご参照ください。

「システム管理者認定講座」の2024年度スケジュールはこちら

https://www.sysadmingroup.jp/event_seminar/seminar/2024fly_ninteikouza/

※お申し込みページは3月に公開予定です。「団体申し込み」の場合は2月からお申し込みが可能です。

【システム管理者感謝の日イベント】

7月10日(水)開催予定「第18回システム管理者感謝の日イベント」

当会、最大のイベント「システム管理者感謝の日イベント」を大手町日経ホールにて開催予定です!参加者同士が会場で直接交流できる貴重な機会となっています。同じ志を持つシステム管理者の方々とネットワークを広げ、知識と情報を共有しましょう!

前回のイベント動画はこちらからご覧いただけます。

※動画のご視聴については、無料の個人会員登録が必要となります。



前回、第17回のシステム管理者感謝の日イベントの開催報告はこちら

https://www.sysadmingroup.jp/seminar_event/thanks_day/report/year-2023/

【Web座談会イベント】

大人気のオンラインイベント「IT女子座談会」の第4弾を2023年12月に開催しました。多くの企業がIT人材不足に悩んでおり、ITスキルを持つ女性の活躍の場が増えています。このような女性に役立つ情報が得られるよう、ITに携わる女性にフォーカスした座談会となっています。

今年2月には、新企画として、当会へ「運用ノウハウ」や「コラム」といったコンテンツを執筆されている先生方に登壇していただく「Web座談会 執筆者のホンネ!」を企画していますので、ぜひご期待ください!

第4回「IT女子座談会」の開催報告はこちら

https://www.sysadmingroup.jp/event_seminar/seminar/report/it_woman_event_04/

「Web座談会 執筆者のホンネ!」の詳細および申し込みはこちら

https://www.sysadmingroup.jp/event_seminar/seminar/authors_1/

【システム管理者アワード】

「システム管理者アワード」は、ITシステムを支えるシステム管理者の方々の努力や業務への貢献を称え、感謝の気持ちを伝えて活躍を表彰する活動です!システム管理者を応援する各社の活動を広く知らせ、表彰することで、業界全体の発展に貢献します。各社の活動を募集していますので、ぜひ皆様もご応募ください!

システム管理者アワードの詳細はこちら <https://www.sysadmingroup.jp/award/>

★SNS (Facebook、X) で情報発信中!!

「システム管理者の会」では、日頃からFacebookやX(旧Twitter)といったSNSでも情報を発信していますので、ぜひフォローをお願いします!



株式会社ユニリタ www.unirita.co.jp

本社 〒108-6029 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟
名古屋営業所 〒451-0045 名古屋市西区名駅3-9-37 合人社名駅3ビル

ユニリタグループ

株式会社ヒューアップテクノロジー / 株式会社ビーティス / 株式会社データ総研 /
備実必(上海)軟件科技有限公司 / 株式会社ビーエスピーソリューションズ / 株式会社ユニートランド /
株式会社ユニリタプラス / 株式会社無限 / 株式会社ユニリタエスアール